

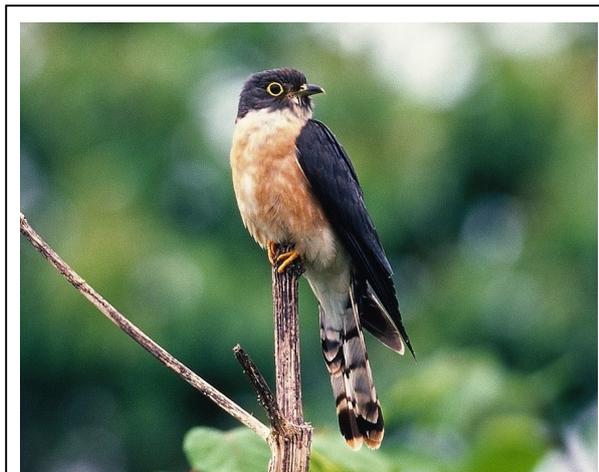
ジュウイチ *Hierococcyx hyperythrus* (Gould)

【選定理由】

主に東三河の山地に飛来して、コルリやコマドリ、オオルリなどの巣に托卵して繁殖するが、近年は繁殖地でも確認数が少なくなっている。春の渡りでは繁殖地以外でも鳴き声が聞かれるが、その確認機会も減っている。愛知県鳥類生息調査地点である旧鳳来町の「県民の森」では、1977年までは標高が300m程度以下の低地で繁殖期の記録があり、この個体群はオオルリに托卵していたものと推測される。本種の生息する標高は全体に高くなっており、生息数は減少している。

【形態】

全長 32cm。頭部から背は灰黒色で下面は淡い赤褐色、後頸に白斑がある。尾は灰色で先端に淡朱色の斑がありその内側に太く黒い横斑がある。眼の周りに黄色の縁取りがあり、脚は黄色い。幼鳥は下面が白く黒褐色の縦斑がある。



石川県, 2000年5月21日, 石井照昭 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

夏に三河地方の山間部にごく少数が生息する。春秋の渡りでは、平野部でも観察されることがある。

【国内の分布】

夏期に北海道、本州、四国、九州に飛来するが数は少ない。

【世界の分布】

ウスリー、中国東北部から南部、朝鮮半島、ネパール、東南アジアで繁殖し、東南アジアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

広葉樹林や針広混交林に生息し、コルリ、オオルリ、コマドリなどに託卵して繁殖する夏鳥で、大きな声でジュウイチーッ、ジュウイチーッと繰り返し鳴き、夜間も鳴く。県内における托卵先のコマドリは標高1,000m程度以上、コルリは700m程度以上に生息することで、本種の多くは同じ標高に生息する。標高600mの「閤苅」と300m未満の「県民の森」にはコルリとコマドリは生息しておらず、ここに生息する本種の托卵相手は低地にも分布するオオルリと推測される。

【現在の生息状況／減少の要因】

4月下旬頃から飛来して10月には飛去する夏鳥であるが、現在県内で繁殖するコマドリは激減して1ペア程度と思われるため、県内東部の標高1000m程度以上の山塊と、その裾にある標高700m程度以上の尾根筋に生息する本種の多くは、コルリに托卵しているものと推測される。愛知県鳥類生息調査地点でコマドリやコルリが全く繁殖していない「県民の森」でも本種は繁殖期に生息していたが、2006年以降の記録はない。同じく「閤苅」では1965年にオオルリへの託卵が確認されており、その後一時期生息が途絶えていたが、近年再び繁殖期の生息が観察されている。

【保全上の留意点】

托卵先であるコマドリ、コルリが減少しているので、その生息環境を保全することが重要である。

【特記事項】

県内のコマドリやコルリは、標高700～1,000mの山地にある原生林や二次林の、林床に低い笹が生える環境の地上で営巣する。オオルリは標高が低く、針葉樹の多い谷間の崖でも営巣することが多い。以上のことから、県内に生息する本種には托卵相手が異なる、2系統の個体群が生息していることも考えられるが、近年は繁殖期に標高の低い場所での確認例はかなり希となっている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.38. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)